



第4

次吉田町総合計画の後期基本計画は、平成23年度に始まり、平成27年度に終わります。この5力年間の後期基本計画では、産業振興について、①地の利を生かした産業振興②既存資源の充実による観光振興——を重点化項目として取り上げています。前者は「豊富な水資源の活用を図るとともに、インターチェンジを生かした企業誘致を進める」方向で、後者は「県の計画(空港ティール・デンシティー構想)と連携を図りつつ、小山城周辺及び吉田公園を拠点として大規模イベントが開催できる環境を整えるほか、新たな観光資源を開発する」方向で、それぞれの具体化を考えています。

前月号で都市整備についてお話ししましたが、平成23年度から平成25年度までの3力年で、吉田町の道路網の基軸となる榛南幹線と東名川尻幹線の建設を強力に推し進め、それぞれ平成25年度中の開通を予定しています。この基軸道路の開通と合わせた大幡川幹線・住吉幹線の開通は、東名高速道路吉田インターチェンジの効果を飛躍的に引き出すものと思われまますので、このインターチェンジを生かした企業誘致に努めたいと考えています。

また、空港ティール・デンシティー構想は、川勝知事の提唱するものであり、富士山を正面に望む美しい茶畑を有する緑豊かな自然環境に恵まれた空港周辺地域を、特に「ティール・デンシティー」と位置付け、「ふじのくに」の玄関口に相応しい、魅力溢れる空港の実現を目指しています。そして、その魅力溢れる空港を引き立たせるための観光ルートの一つとして、空港から小山城、吉田公園を結ぶ23^号の海の道(オーシャン・ロード)が引かれています。当町は、この海の道を最大限に生かし、小山城、吉田公園を観光資源として活用できるよう県の構想と調和する整備を進めようと考えています。

チェンジを出た車は、富士フィルム(株)などの大企業が立地する東部地域に行くために東名吉田インターチェンジを真つすぐ東に向かうか、右折して国道150号に向かうかの二つの選択肢しかありません。基軸道路である東名川尻幹線の開通は、東名吉田インターチェンジを出た車をスムーズにさばいてくれます。大企業が立地する東部地域への車の流れはこれまでよりもスムーズになると同時に、東名インターチェンジを右折して東名川尻幹線にのつた車は、一直線に国道150号と榛南幹線に到達し、東西にスムーズに分流出るようになります。富士見橋の手前で生じている交通渋滞が解消され、国道150号の流れもスムーズになるものと考えられます。

切ることから地域でなかなか合意を得ることが難しいという問題を抱えています。地域で話し合いが進められていくと聞き及んでいきます。神社は地域の信仰の対象であり、地域の人々の精神的な絆の基軸でもあるだけに、建設の合意が得られるのか否か、先行きの結論は分かりませんが、慎重に話し合いを重ねて関係する地域の人々が納得のできる結論に到達されますよう祈念しています。この大幡川幹線の開通によって、大企業が展開する東部地域の生活基盤の整備が飛躍的に進むものと考えています。

3本目は、国道150号に端を発して住吉の西部地域を南北に縦貫する住吉幹線です。この住吉幹線の開通は、当町の西部地域を南北に縦貫することで榛南幹線と国道150号を結合させるとともに「ファッションセンターしまむら」から「カインズホーム」へ抜け

る舞台民附線の拡幅整備によって西部地域の生活基盤の整備も飛躍的に前進するものと考えています。いささか細かにお話ししすぎた感がありますが、平成23年度から平成25年度にかけて精力的に道路網の整備を推し進め、東名吉田インターチェンジの持つ潜在的な魅力を引き出し、企業進出という花を咲かせたいと考えています。

観光資源の環境整備

交流人口を増やすためには、大きなイベントを開催できる拠点が不可欠の要件ですが、当町には現在のところ吉田公園しかありません。この6月の初旬に吉田公園で大規模な音楽のイベントが開催される予定です。このイベントの開催は、吉田公園と公園西側の町有地の抱き合わせによって生まれたものです。吉田公園は交通の不便な立地条件を抱

町長からのメッセージ 97

我が町の明日のまちづくりについて…⑥

— 産業振興 —

企業誘致の促進

これまでの当町への企業進出は、大井川の豊富な水資源に加え、東名高速道路の開通および吉田インターチェンジの開通といった有利な立地条件がもたらした結果ではないでしょうか。このことは、富士フィルム(株)、オカモト(株)、(株)ソニーDADCジャパン、日本ハム(株)、AGCテクノグラス(株)などの企業進出を考えれば、容易に理解できるものと思います。

大井川の豊富な水資源が企業進出の誘因の一つであることは今後とも変わりありませんが、この誘因をこれまで以上に魅力あるものとするためには、東名高速道路の吉田インターチェンジが持つ潜在的な流通機能を引き出す施策が必要となります。

この施策の一つが、前月号でも触れました榛南幹線と東名川尻幹線の基軸道路の建設であり、基軸道路に準ずる大幡川幹線と住吉幹

線および舞台民附線の拡幅整備に他なりません。目の前に当町の地図を置き、じつと眺めていると車の流れが様変わりすることがお分かりになるものと思えます。

まず、当町を東西に横切る道路が3本数えられます。1本目は、上から「はばたき橋」を渡って当町の一部を横切る北部幹線、2本目は国道150号であり、3本目は榛南幹線となります。その他、当町を東西に走る道路としては、自彊小学校の前を走る主要地方道吉田大東線、当町の南部地域を走る主要地方道焼津榛原線に加えて、当町の北部地域を走る富士見幹線と完成間近な広域農道が数えられます。当町の南北はおおよそ5^分ですから、何とも豊かな道路網に恵まれている自治体ではないかと言えるのではないのでしょうか。

次いで、当町を南北に走る道路に触れてみましょう。1本目は、基軸道路の東名川尻幹線が挙げられます。これまでは、東名インター

のように思われます。小山城前広場の敷地の狭さは、現在の広場を西側に拡げる方向で今後考えていかなければならないと考えています。

また、小山城周辺が観光資源として名を馳せるためにも、小山城が単なる建造物として孤立化している現状を打破し、誰もが何回となく訪れたい魅力溢れるものにする必要があります。小山城に上がってみればすぐ分かることですが、小山城の建っている台地は当町を360度のパノラマのように眺めることができます。戦国の世に武田信玄が大井川の河口を制するためにここに砦を築いた戦略的な理由がよく理解できます。

小山城を当町の観光資源として小山城前広場と抱き合わせて開発するために、関係者の皆さまと胸襟を開いて話し合いたいと考えています。

